



2026年7月15日掲載

AI需要は続くが誰が儲かるのか

人工知能(AI)・半導体関連株が調整していますが、AI需要そのものが弱くなったとは考えられません。このところのニュースをもとに、市場は「AI需要は続くとして、その利益を誰が獲得するのか」という点に対して神経質になっているようにみえます。

これまでAI・半導体関連株については、

- ① 競争激化
- ② データセンターなどのキャパシティー不足
- ③ 負債増加

という3つのリスクを指摘してきました。米国企業がコストの安い中国のAIを利用し、推論など一部の計算を外部委託する動きが広がっているという今回のニュースは、①の「競争激化」への懸念です。

投資を増やしてきた米国の半導体関連企業、それを支える日本・台湾・韓国のバリューチェーンにも影響が及ぶ可能性があります。

もっとも、半導体需要そのものがなくなる話ではありません。AI利用は拡大を続けており、計算能力への需要も増えています。

しかし、利益率や投資回収への期待は変わるかもしれません。これまで強気な設備増強計画を打ち出してきた企業が、慎重な姿勢になる恐れがあります。

これは現時点では、一時的・心理的なものとみています。しかしこの懸念が続けば、日本株は半導体関連が主導する日経平均型から、銀行、保険、非鉄、建設、商社などが支えるTOPIX型へと、当面の物色の中心が移る可能性があります。

AI需要の基調は依然として強いですが、市場心理はしばらく慎重になりやすく、次の上昇には主要企業の決算や投資計画などによる安心材料が必要になりそうです。

(アモーヴァ・アセットマネジメント チーフ・ストラテジスト 神山 直樹)

※2025年9月1日、日興アセットマネジメント株式会社はアモーヴァ・アセットマネジメント株式会社に社名変更しました。

《本資料は執筆者の見解を記したものであり、当社としての見通しとは必ずしも一致しません。本資料のデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客さまご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》